



窓 油彩会員 廣岡紀子

## 「第97回道展及び令和5年度の道展の活動」



事務局長 澤田 範明

昨年の第96回道展は、札幌市民ギャラリー改修工事のため約1か月早い会期でした。コロナ禍の日常において少しずつ通常の活動に近づく中、更なる展示改革を推進できたこと、多くの方々に観覧いただいたことに感謝しています。さて、令和5年度、第97回道展は、10月12日(木)搬入日、会期は、初日10月19日(木)～11月5日(日)までの16日間となります。また1歩、創立100周年に近づいてきました。令和4年度には、事務局による3回に及ぶ「道展創立100周年準備委員会」では、事業企画検討委員会等における100周年に向けての意見等の確認や100周年事業実施までのスケジュールの策定を行いました。今後は、地区、部門、世代を網羅した「道展創立100周年事業運営委員会」の発足へとステージが進んでいきます。ここからは創立100周年事業について具体的に検討していくこととなります。進捗状況はその都度、春季、秋季総会にて報告していくことになると思います。道展創立100周年に向けた調査の中で、その存在は確認できても、目に触れる資料としては欠けていた「創立二十五周年記念誌『道展』」を道立近代美術館の書庫で発見しました。「道展100年史」に向けての貴重な資料として活用する予定です。また、その他に「道展三十年史」「道展四十年史」も出版されていますが見つかってはいません。道展の歴史についての貴重な資料として何とか探したいものだと思っています。ここで「道展五十年史」に掲載されている一文を紹介しします。今は100周年を迎えようとしています、当時の道展にとって、道展人にとって、いかにこの第25回道展が重要かつ感動的なステージであったかを少しでも感じていただけたらと思います。

「道展二十五周年」に当たり、苦勞を重ねた伊藤正はこう言う。

— 『道展は続けなければならない。如何なる隠忍の時期を経ても続けなければならない。』これは、終戦直後の疲弊の中にようやく立ち上がったいわばやせ細った道展の合言葉であった。』（道展四十年史）

（中略）第二十五回記念道展は、戦後直後に分裂改組した道展に、再建の希望をはっきりさせた展覧会であった。』



記念事業として出版した  
「道展—二十五回記念」  
A5判94ページ

10年毎の記念展において記念史が編集されており、そこには道展の歴史が当時の空気と共に閉じ込められています。そして今、第97回道展は単なるプロローグではなく100周年へのステップとしての重要な役割を担っていると思います。全会員会友、出品者の生き様が作品に昇華され、素晴らしい展覧会となることにより道展の歴史は積み上げられていくのだと思います。今年も多くの作家の生き

方、人生のドラマを垣間見ることができるとわくわくしています。また、市民ギャラリー改修のために1年間休止となった「道展U21」は再開します。今年度第14回を迎える「道展U21」ですが、若い芽は確実にその実力を伸ばしています。春の芽吹きそのままの勢いには驚かされます。2年ぶりとなる開催は実に楽しみです。これで、ようやく道展の全展覧会活動が通常に戻ります。コロナ禍生活がさらに望ましい日常に近づきますよう、祈りたい気持ちです。

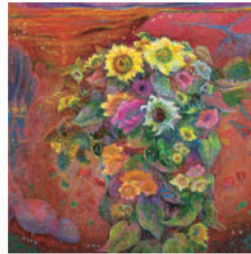




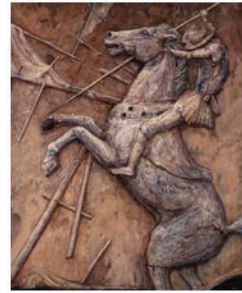
会友賞 羽子田千夏  
水畔



会友賞 和泉よう子  
刻の記憶「道標'22」



会友賞 居林 洋子  
丸加に咲く(落日)



会友賞 鎌田 朝緒  
見果てぬ夢



会友賞 島 常雄  
静御前



会友賞 浜中マサノリ  
街に落ちる影



会友賞 清水千賀子  
セキレイ



会友賞 竹村 恭子  
冬日



会友賞 星野美知枝  
白日の水



会友賞 船岳 絃行  
アポロンの記憶

## 第96回道展 会友賞・新会友 受賞者の

# ことば

- 会友賞 日本画 羽子田千夏  
まさか自分が会友賞を頂けるとは思わなかったので驚き嬉しく思っております。社会人となって10年近く、仕事をしながらも制作を続けられる環境があり自分は大変恵まれていると感じています。今後も一層精進して参りますのでよろしく願いいたします。
- 会友賞 油彩 和泉よう子  
ようやく一步を踏み出せたような気がします。「刻の記憶」をテーマとし、始めは素材の持つ力や色の輝きに惹かれ、現在は心情的な表現を心がけて制作しています。しかし、いつも課題は素材以上の力を如何に作品に与えられるか…。日々研鑽を重ねてまいります。
- 会友賞 油彩 居林 洋子  
WBCを見た。たくさんのドラマがあり感動の連続であった。野球にはうとい私だがいつか絵を描く自分の姿と

重ねていた。スポーツも芸術も共通点が沢山ある。強い意志と情熱をもって枯れてもなお魅力がある姿を見せるひまわりを追求しよう。

- 会友賞 油彩 鎌田 朝緒  
初入選してから、ずっと木馬をテーマに描いてきました。メリーゴーラウンドから、最近では虚像に立ち向かうドン・キホーテへ。愚かでも勇敢な、少し悲しい人間の物語です。もっともっと、自分の感情を表現できたら、と思いつつ描いています。
- 会友賞 油彩 島 常雄  
北運河近くにある小樽博物館には、明治以来の鉄道施設が保存されています。レンガ造りの車庫や電動の転車台、構内を走るアイアンホース号、館内には「静号」がいます。今後は自分なりの視点とペースで、故郷小樽の風物をテーマに制作してまいります。
- 会友賞 油彩 清水千賀子  
道展へ初入選した時は、倉庫を描いていました。釧路港から河口へ私のモチーフも移動し、水辺を描くようになり、その水辺に蝶が来てセキレイが飛んで来ました。これからも自然の優しい時間を切り取って描いていきたいと思っています。

- 会友賞 油彩 竹村 恭子  
父を題材に春夏秋冬を制作するのが目標で、「冬日」は冬の暖かい日差しの中、父と父のひ孫達が本を読みながら遊んでいる様子を、令和元年に制作した「春日」は父とひ孫のふれ合いを描きました。次は夏と秋、どう表現するか苦悩でもあり楽しみでもあります。
- 会友賞 油彩 浜中マサノリ  
人々が暮らす街、様々な欲求を満たしながら発展してきた、時代の変化により役割を終えるもの、それに代わって新しく造られるものがあり、街は少しずつ形を変えていく、未来に何があるか誰も分からない、そんな不安を街の景色に漂わせて描いてみたい。
- 会友賞 油彩 星野美知枝  
今作は水をテーマに描いた4作目。いつもの色調よりも明るく、初めてのSサイズで自分としては冒険したつもり作品。夏の陽を浴びた静物たち。白布は波のイメージ…。ドラマ性のある静物画を目指したい。あと暫くは様々な表情の水を描きたいと思っている。
- 会友賞 油彩 船岳 絃行  
現実世界の神秘や人間の深層心理を、私自身の感覚を通して浮かび上が





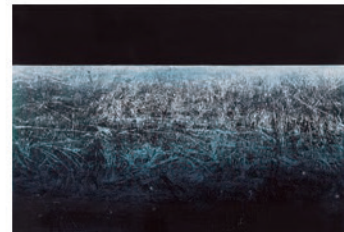
会友賞 谷岡美代子  
静かな時



会友賞 土井上初枝  
絨星霜



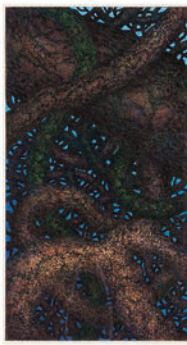
新会友  
菅原 達博  
初冬の街



新会友  
上村 豊  
Horizon



会友賞 福江 悦子  
心友



会友賞 匂坂 敏郎  
ある情念 (措陸)



新会友 植松 宏  
折り



新会友  
津田光太郎  
目録装置と辞世の句



新会友  
村上 英一  
北の浜1



新会友  
三浦なおみ  
会えないけれど...



新会友  
水尻 悦子  
陽春

らせようとしています。誰かの内側にある「童心」を喜ばせることができるような、または「野生」がふくらんでくるような生き生きとした絵を描けるようになりたいと思っています。

●会友賞 水彩 谷岡美代子  
数年前、私の母は亡くなる頃杖をつき歩くのがようやくでしたが、道展会場で私の絵を見たいと言いました。つれ歩くのが大変と考えるとそのままになりました。今、絵を描く時その事を思い出します。母を想いながら、又自身の絵を描きたいと思っています。

●会友賞 水彩 土井上初枝  
田舎道を走ると、コンクリート多使用の牛舎等は莫大な解体料がかさむ為、屋根を落としただけの廃屋が点在する。それぞれのそこでの営みが自分と重なり感慨深いものがある。そして、人生の苦楽は、その人にしかわからない。

●会友賞 彫刻 福江 悦子  
会友賞「心友 (しんぬ)」一木造りで初の全身像です。世を憂いながらも安心せよという表情、より友に近い菩薩像です。コロナで私の営むバーが休業、時短。悩むより、これは良い転機、と前進。小樽にアトリエを得、のびの

び制作ができるようになった忘れられない第一号です。

●会友賞 版画 匂坂 敏郎  
縁あって版画に出会い、2006年に初入選をさせて頂きました。定年を迎えた私にとって、先の生き方に大きな道筋を与えて下さいました。私は「樹」をテーマに作品づくりをして来ましたが、今後、新たな視点での挑戦もしたいものだと思っています。この世界の魅力、奥深さにお導き頂いた諸先生のご指導・ご助言に心から感謝を申し上げます。

●新会友 油彩 植松 宏  
30年近く、道庁役人生活、インフラ整備に従事。退職後、山本、西田先生の教室に通い、当初は恐竜を主役にした油彩を出品、現在は外国人女性を主役にした人物画を描いています。これからも、心のこもった人物画を描いていきたいと思っています。

●新会友 油彩 菅原 達博  
私は今年七月で満七十五歳です。来年は喜寿を迎えます。今は百歳時代です。すればまだ成人でしょう。でも近年特に今までと違う体調の衰えを感じております。今後この未体験の事を乗り越えるためにはこの油絵は、私には

必須条件であります。

●新会友 油彩 三浦なおみ  
午後の光と交差する階段手すり、白い壁と青い扉を見て構図が決まりました。二人が居る穏やかな空気感を表現しようと描き始めました。今後は濁らない色彩・光と影そして力強さも研究しながら、表現できる力を身に付けていきたいと思っています。

●新会友 油彩 水尻 悦子  
私は、田舎育ちで油彩などと言う物には縁遠く退職後、初めて絵筆を持って十年余りになります。その間、辛い事も多々ありましたが、絵画に勇気づけられました。制作に当たっては、常に穏やかさを、心とむ作品を心がけています。如何でしょうか、未だ未だ未熟者ですが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

●新会友 油彩 村上 英一  
私は35才頃から油絵を始めました。積み重ねている内に、風景画に魅力を感じ地元、深川の風景、そして各地を廻って作品づくり、近年では特に海岸の景色に心をひかれキャンパスに向かっています。今では高齢となり、遠くには行けませんが健康な間には描き続けたいと思っています。



2023年4月1日

# 【道展公式ホームページ】をリニューアルいたしました！

パソコン、スマホ、それぞれの画面に合わせ、より見やすく分かりやすい内容となっております。

— HPアドレスは従来のまま変更ありません —

 <http://www.doten.jp>



※スマホから見たHP画面の一部  
(縦スクロールで動きがスムーズになりました)

- ホームページから出品エントリーする事が出来るようになりました。
- 初めて出品される方、道展を知りたい方、そもそも公募展とはなに？という素朴な疑問を漫画で楽しく説明！「マンガ教えて道展くん」を掲載
- 会員・会友のプロフィールページが出来ました。

今後とも『道展(北海道美術協会)』をよろしくお願いたします。



## 【『第97回道展』の搬入日と会期について】

- 会員・会友搬入日：2023年9月30日(土)
- 公募搬入日：2023年10月12日(木)
- 会期：2023年10月19日(木)～11月5日(日)
- 会場：札幌市民ギャラリー

## 【第14回道展U21の搬入日と会期について】

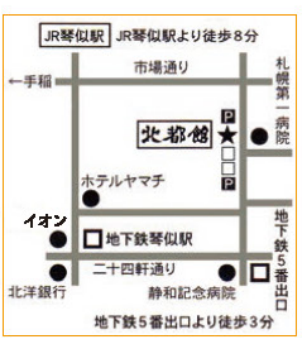
- 搬入：2024年1月30日(火)
- 会期：2024年2月2日(金)～2月4日(日)
- 会場：札幌市民ギャラリー

## 絵好きの集う店 カフェ北都館ギャラリー

札幌市西区琴似1条3丁目1-14 第一病院向  
TEL 011-643-5051

営業時間 水・木・金 AM10:00～PM10:00  
火曜定休日 土・日・月 AM10:00～PM 7:00

メールアドレス [hokutokan@sa3.gyao.ne.jp](mailto:hokutokan@sa3.gyao.ne.jp)  
<http://hokutokan.jimdo.com>



「末摘花」はペニバナの異名で、花の末から咲き、摘み取ることからついた呼称。源氏物語に登場する姫君「末摘花」とは、彼女の鼻が紅いのをペニバナの「花が紅い」ことにかけて光源氏がつけたあだ名である。中国の呉から伝来した藍(この藍は「色」ではなく「染料」の意)「呉(くれ)の藍(あい)」から転じて「くれない」とも。

C14% M98% Y63%

行く末は誰が肌ふれむ紅の花 芭蕉  
<http://nakanishi-shuppan.co.jp>



## 道展ニュース

No. 151 [2023年5月18日発行]

発行 ■ 北海道美術協会  
編集 ■ 道展広報部  
URL ■ <http://www.doten.jp>  
発行所 ■ 笠井真紀子(中西印刷株式会社)  
印刷 ■ 中西印刷株式会社

編集  
後記

リニューアルした道展公式ホームページの「マンガ教えて道展くん」は、広報部のホームページ担当者が考案したストーリーと脚本を、筆者がゆるいテイストを意識してマンガにしたものです。これからも掲載する予定ですのでどうぞよろしくお願いたします。皆

様のお近くに「道展？ 公募展ってなに？」と疑問をお持ちの方がいらっしゃいましたら「マンガ教えて道展くん」をお勧めしてみてください。

(A.S.)